

散歩行動と歩行空間の実態に関する調査

- 田主丸町市街地周辺部を対象として -

福岡大学工学部 学○本山英樹 九州大学工学部 正 外井哲志
 福岡大学工学部 正 井上信昭 福山コンサルタント 正 中村 宏

1. はじめに

本格的な高齢化社会を迎えて、健康面からの歩行や散策の重要性は高まることが予想され、今後は、散歩道として気持ちよく歩ける歩行空間を質量ともに充実することが要請されるであろう。一方、こうした健康面ばかりでなく、散歩を通して自分が住む町の良さや問題点が再確認され、町への愛着が深まるといった効果もあり、散歩はより良いまちづくりのための一つの重要な視点を提供するものであると考えられる。

散歩は歩行の一つの究極の形態であり、散歩道の理想像の研究は、豊かな歩行空間の計画に貢献できる。著者らは、こうした観点から、散歩に関する文献調査と概念整理、福岡市における散歩の実態調査など実施してきたが^{1), 2)}、散歩行動ならびにまちづくりと散歩との関係をより詳細に分析することを目的として、田主丸町で実態調査を実施した。以下、その調査結果の一部を報告する。

2. 調査の内容

田主丸町の中心部の24地区(世帯数1158、居住者4120人)を調査対象地域とし、同地区から464世帯を抽出した。調査対象者は中学生以上とし、留置法により平成6年10月に調査を行った。

意識調査の内容は、①世帯(世帯構成、構成員の性別、年齢層、職業、居住の年数と形態など)、②散歩行動(散歩の経路を含む)、③買物行動、④中央商店街の町並み評価から構成されている。本研究では、そのうち、②の一部を対象とする。

3. 調査結果

有効回答者数は814人であり、その内訳は、男性359人、女性455人であった。年齢階層別には、表-1のとおりである。

散歩の頻度については、表-2に示すように散歩をする人が全体の58%、散歩をしない人が全体の42%となっている。男女別では、女性の方が毎日散歩する比率が高く(男14%：女19%)、全く散

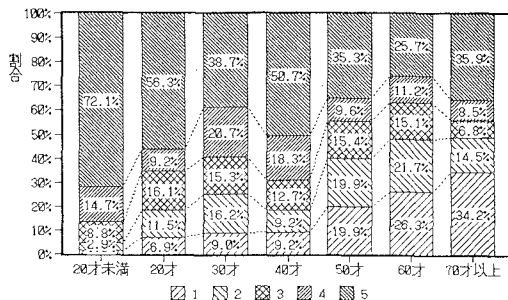
歩しない人の比率が低い(男48%：女38%)。年齢層別にみると、図-1に示すように年齢層が上がるにつれて、散歩の頻度も高まる傾向がみられる。この他、40才代では、前後の年代に比べて散歩をしない人の割合が高いこと、50才代以上の年代で、週に2,3回以上の頻度の割合が急増すること、70才以上では、毎日散歩する人の割合と全く散歩しない人の割合がともに増加し、両極化が進むこと

表-1 年齢層別内訳

20才未満	68人	8.4%
20~30才	87	10.7
30~40才	111	13.6
40~50才	142	17.5
50~60才	136	16.7
60~70才	152	18.7
70才以上	117	14.4
合計	813	100

表-2 散歩の頻度

ほぼ毎日	137人	16.8%
週に2,3回	120	14.7
月に2,3回	107	13.1
年に2,3回	107	13.1
全くしない	343	42.1
合計	814	100



注) 下から、①ほぼ毎日、②週に2,3回、③月に2,3回、④年に2,3回、⑤全くしない

図-1 年齢階層別の散歩頻度

表-3 散歩の目的

気分転換のため	123人	25.6%
体力向上・健康維持のため	222	46.2
日課として	35	7.3
なんとなく	58	12.1
その他	43	8.9
合計	481	100

表-4 散歩の種類

歩くことを目的とした自宅周辺の散歩(特に目的地はない)	227人	51.7%
近くに公園や神社・仏閣があり、その中で時間を過ごす。	40	9.2
近くの公園や神社・仏閣、川や展望がよい場所など、いくつかの決まったポイントを周遊する	65	14.9
自宅や職場周辺の町並みや路上・路側の観察	41	9.4
その他	64	14.6
合計	437	100

表-5 散歩の時間			表-6 散歩の時刻		
30分未満	218 ^人	47.0%	早朝	102 ^人	20.2%
30分～1時間	210	45.3	午前中	55	10.9
1～2時間	34	7.3	昼休み	6	1.2
2時間以上	2	0.4	午後	53	10.5
合計	464	100	夕方	88	17.4
			夜間	73	14.5
			決めていない	128	25.3
			合計	505	100

表-7 散歩時の天候

暖かく晴れた日でない散歩しない。	172 ^人	38.9%
曇っていたり、すこし風がある日でも雨が降らなければ散歩する。	231	52.3
少々の雨なら、散歩を欠かすことはない。	39	8.8
合計	442	100

表-8 散歩の意義

有意義である	339 ^人	76.4%
特に意義を感じない	105	23.6
合計	444	100

などの特徴がみられる。

以下の項目に関しては、「全く散歩しない」と回答した人は除外している。

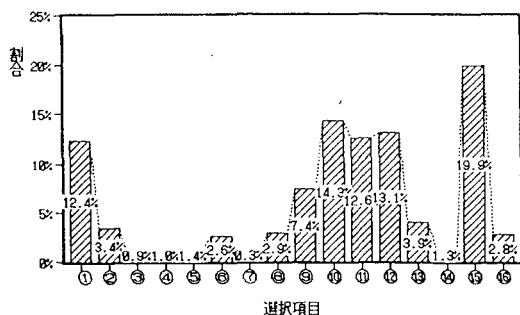
散歩の目的については（表-3）、体力の向上・健康維持のために46%、次いで気分転換のために26%と多い。

散歩の種類については（表-4）、目的地を持たずに自宅周辺を歩くタイプの散歩が52%と多く、神社・仏閣や川などいくつかのポイントを周遊するタイプや、路上観察型の散歩はあまり多くない。

散歩する時間は（表-5）、30分未満と30分から1時間未満のものがほぼ同数であり、合せて92%に達する。散歩の時刻は（表-6）、早朝（20%）、夕方（18%）夜間（14%）等に分散しており、特に決めていない（25%）が最も多い。

天候については（表-7）、雨が降らなければ散歩する人が大半であり、雨が降っても散歩に出かける人は9%に過ぎない。また、表-8によれば、75%の人が散歩に意義を見いだしており、25%の人が意義を見いだせないままに（犬の散歩など）散歩をしている。

各人が散歩コースを選んだ理由の頻度を図-2に示す。理由として⑩自宅の近くにある、をあげる割合が高い（20%）が、より積極的な理由では、⑫水辺があって気持ちが良い（14%）、⑬自動車を通らない（13%）、⑪美しい自然の風景がある（13%）、①閑静で落ち着いている（12%）をあげる人が多い。これらを見る限り、都市・賑いより



注) ①閑静で気持ちが落ち着く。②休憩できる場所、見晴らしのよい場所がある。③商店や人が多く賑いがある。④道路のようでも何か面白いものを発見できそう。⑤町並みの景観が美しい。⑥道の両側の家々の生け垣や庭の花が美しい。⑦歴史的な建物や史跡を見て楽しめる。⑧散歩仲間と話ができる。⑨自然の動植物に接することができる。⑩川や池、堤などの水辺があって気持ちがよい。⑪美しい自然の風景がある。⑫自動車が進まないで通らないので安全。⑬路面に土が残っていて歩きやすい。⑭照明施設が充実しており、明るい道だから。⑮自宅の近くにある。⑯その他

図-2 散歩コースを選んだ理由

も自然・落ち着きを求める傾向が強いことがわかる。

そのほか、散歩は一人でする場合が多い（45%）が、家族を同伴する場合も多い（30%）こと、ラジオやステッキ等の所持品を携行する人は少ない（20%）こと、歩行距離や時間等の目標をもって散歩をする人は約17%であること、散歩には、春（40%）と秋（45%）が好まれること、などが明かとなった。

4. 結論および課題

散歩行動調査の結果に基づいて、田主丸町における散歩行動を分析し、様々な知見を得た。中でも、性別、年齢階層別の散歩頻度の分析から、女性や高齢者の散歩頻度が高いこと、50才以上で頻度の構成が変化することなど、興味深い結果が得られた。また、全体に健康指向型で、1時間未満の散歩が多いこと、散歩コースの選択理由では、水辺、風景、安全性、落ち着きなど、自然や静けさを好む傾向があることも明かとなった。この結果は、既存の調査結果¹⁾に共通するものである。

今後は、散歩行動の類型化や散歩経路の追加調査と詳細な分析などを通して、散歩行動の実像と散歩者に好まれる歩行空間の特性を明らかにするとともに、散歩と買物行動および町並み評価との相互関係などについても分析していく予定である。

〔参考文献〕

- 1) 坂本、外井、花田：「散歩」に着目した歩行空間のあり方について、土木学会第48回年次学術講演会講演要録、1993. 9, pp. 456-457
- 2) 坂本、外井、李：散歩からみた快適な歩行空間のデザインコンセプトの抽出、土木学会西部支部研究発表会、1994. 3, pp. 786-787